

D 144 学生・OL・母親間の下着の着用意識 第2報 着用意識と性格特性の関連性  
山梨県立女短大 ○小菅啓子 元山梨大教育 矢崎浄子  
文化女大家政 盛田真千子 香川幸子 共立女大 小林茂雄

目的：前年度の研究で、衣生活における多様化は、下着の着用意識についても現れていることが、下着の着用意識の世代間（女子大学生と母親）の特徴を考察することにより、明らかになった。本報では、第1報に示すように、調査対象者を広げると共に、下着ならびに上着の着用意識と性格特性との関連性について考察した。

調査及び解析方法：調査対象者及び調査時期、ならびに「下着と上着の着用意識」の調査内容は第1報と同様である。性格調査は、鈴木裕久氏のパーソナリティースケールを用いて行なった。着用意識と性格特性との関連性は、第1報で得た、因子分析法による着用意識の「因子得点」と「性格得点」の相関関係、ならびに性格得点別にみた各因子の因子得点のプロフィールを基に解析した。

結果：第1報において、下着と上着の着用意識につき、因子分析により、それぞれ8個の基本因子が抽出された。これらの因子と性格特性（同調、情報欲求、自己顕示欲、好奇心）の関連について、相関係数を算出し、有意性の検定を行なった。その結果、自己顕示欲との間に相関関係が多くみられた。すなわち、下着では3個の因子（ファッション・高級志向性、軽装化、デザイン性）、上着では5個の因子（ファッション志向性、心理安定感、自己顕示、経済性、素材意識）と自己顕示欲との間に相関関係が得られた。また、性格得点ごとにみた、各因子の因子得点のプロフィールについては、上着について、性格得点の低いものと高いものとの間に、正負対称的なプロフィールを得た。

1)日本家政学会第42回大会口頭発表(1990)